

平成 28 年度 鹿児島高専 COC+事業報告書

鹿児島工業高等専門学校

目 次

1. 政府の地方創生事業の概要	1
2. 文部科学省の地方創生事業(COC+)	2
3. 鹿児島県における 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の概要	3
4. 鹿児島高専における 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の事業	3
4.1 「COC+高専」地方創生事業推進会議の実施	3
4.2 学生に対し地域企業の特別講義・講演、企業見学会の実施	4
4.3 学生及び保護者に対し地域企業研究会の実施	5
4.4-1 地域企業研究会事業(4年生)の実施	5
4.4-2 地域企業見学会事業(1年生)の実施	5
4.5 企業説明会	6
4.6 インターンシップの実施	6
4.7 教職員に対し地域企業の理解を深めるための工場見学の実施	7
4.8 卒業研究の成果発表を学外で実施	7
4.9 霧島市、日置市による地方創生特別講義の実施	7
4.10 地元企業と共同研究を通しての人材育成の実施	8
4.11 地方創生産学官連携フォーラムの実施	8
5. まとめと今後の課題	9
参考資料	10

1. 政府の地方創生事業の概要

政府は、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、平成27年度から各省庁に地方創生事業を計画、推進している。国立社会保障・人口問題研究所の統計調査による「日本の将来推計人口」を図1に示す。これによれば、日本の人口は2008年の1億2,808万人をピークに下がり始め、2013年には1億2,730万人まで下がっている。2015年10月には国勢調査が行われており、更に、減少していると考えられる。将来予測として、現状、何も対策を講じなければ、日本の人口は1億人を割り、2060年には8,674万人まで減少すると予測されている。これを防止するために、政府は、「我が国の人口の推移と長期的な見通し」の中でこの減少傾向に歯止めをかけ、2060年に10,194万人まで押し戻すために、各省庁に様々な地方創生事業の推進を行うよう指示し、その対策を計画し、実施するよう指導している。

政府の具体的な基本目標は以下の4項目である。

<目標Ⅰ>地方における安定した雇用を創出する

<目標Ⅱ>地方への新しいひとの流れをつくる

<目標Ⅲ>若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

<目標Ⅳ>時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

特に高等教育機関の地方創生事業の中心となる“目標Ⅰ：地方における安定した雇用を創出する”においては、「しごと」と「ひと」の好循環作りとして、以下のような具体的な目標を掲げている。

- ・地域産業の競争力強化（業種横断的取組）

包括的創業支援、中核企業支援、地域イノベーション推進、対内直接投資促進、金融支援

- ・地域産業の競争力強化（分野別取組）

サービス産業の付加価値向上、農林水産業の成長産業化、観光、ローカル版クールジャパン、ふるさと名物、文化・芸術・スポーツの支援

- ・地方への人材還流、地方での人材育成、雇用対策プロフェッショナル人材センター」の稼働

これらの目標の中で、より具体的に推進する目標値（KPI：Key Performance Indicator、重要業績評価指標）として、下記のように具体的な到達目標 KPI 値を掲げている。

(i) 農林水産業の成長産業化

6次産業市場 10 兆円：就業者数 5 万人創出、地域の中核企業、中核企業候補 1,000 社支援、雇用 8 万人創出

(ii) 若者雇用創出数（地方）

2020 年までの 5 年間で 30 万人

(iii) 若い世代の正規雇用労働者等の割合

2020 年までに全ての世代と同水準：15～34 歳の割合：92.2%、全ての世代の割合：93.4%

(iv) 女性の就業率 2020 年までに 73%

(v) 企業の地方拠点強化

拠点強化件数 7、500 件、雇用者数 4 万人増

(vi) 地方大学等活性化

自県大学進学者割合平均 36%

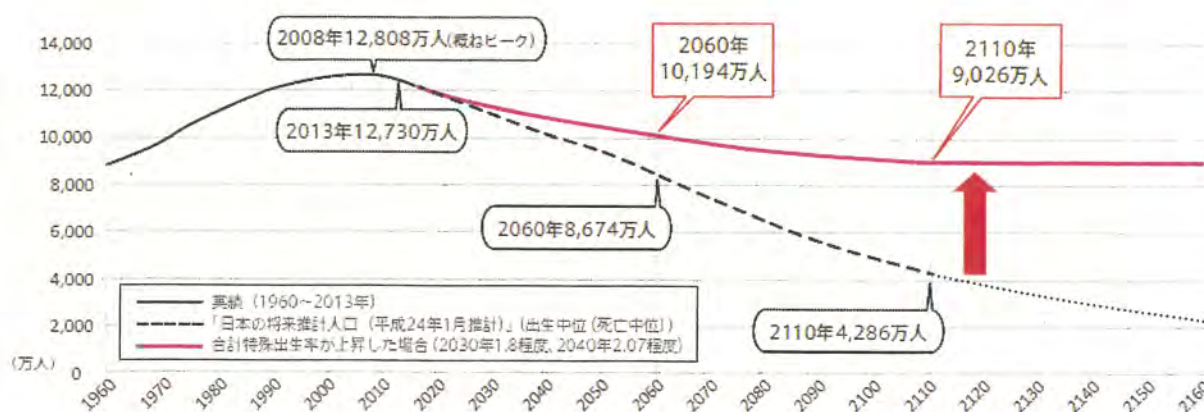


図1 日本の将来推計人口（平成24年1月推計）（出典：国立社会保障・人口問題研究所）

2. 文部科学省の地方創生事業（COC+）

このような政府の地方創生事業の背景の中、文部科学省は、平成27年度大学等高等教育機関教育再生戦略推進として、地方で活躍する人材の育成や産業の活性化、地方が果たすべき役割として、各大学等高等教育機関の強みを生かした大学等高等教育機関の機能別分化を推進することとしている。特に図2に示すように、COC+（Center of Community Plus）大学と事業協働地域の機関が協働し、地域が求める人材を育成するとともに、若年層の地元定着を推進し、地方再生・活性化の拠点となる大学等高等教育機関の形成に取り組んでおり、市町村の自治体、NPO法人、商工会議所などの民間団体や一般企業と協働して、魅力ある就職先を創出・開拓するために「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」を行うことを決定し、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学等高等教育機関の取組を支援することで、地方創生の中心となる“ひと”の地方への移動を目的として事業を遂行するとしている。文部科学省は、COC+の地方創生における大学等高等教育機関の具体的なカリキュラムの改革として、次の目標を掲げている。

- (i) 全学的に定められた入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、各学科で定める各方針に反映されていること。また、その内容がホームページ等で公表されているとともに、各学科のカリキュラム編成等に反映されていること。
- (ii) 全授業科目においてシラバスが作成され、かつその内容として科目の到達目標、授業形態、事前・事後学修の内容、成績評価の方法・基準が示されていること。
- (iii) 学科で教育を行う全専任教員を対象として、教育技術向上や認識共有のためのFDが実施されていること。

以上を踏まえ、大学等高等教育機関には、以下の目標を示している。

- ・地域特性の理解（地域志向科目の全学必修）を目標。
- ・専門的知識の修得と地域をフィールドとする徹底した課題解決型学修による地域理解力と課題発見・解決能力の修得等を目標。

さらに、地方公共団体・自治体、企業等には、大学等高等教育機関と協働して以下を支援するよう求めている。

- ・実務家教員の派遣を行う。
- ・財政支援を行う。
- ・フィールドワークやインターンシップ、PBL等を実施するための場の提供を行う。

以上を踏まえ、具体的なCOC+事業の流れとして図3に示すような流れに従って、最終目標である、地方における「就職率の向上」と「雇用創出」を達成できる目標値を掲げて実施するよう求めている。その流れは、まず、事業協働地域の産業活性化、人口集積を推進するため、大学群、自治体、企業等の課題（ニーズ）と資源（シーズ）の分析を行い、これを踏まえた雇用創出・就職率向上の目標値を設定し、地域が求める人材養成のための教育プログラムを実施するために必要な人的・物的資源の把握した上で、教育プログラムの構築・実施を行うよう求めている。

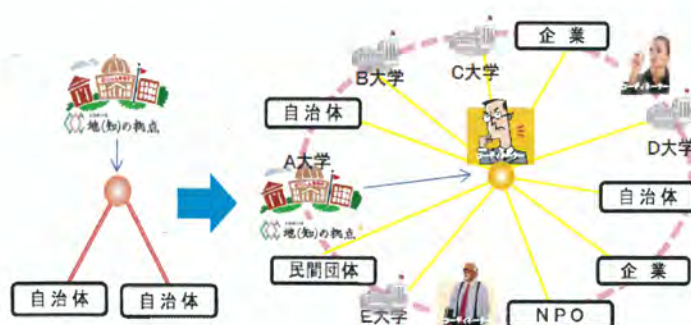


図2 COC+事業の概要図（出典：文科省COC+説明資料）

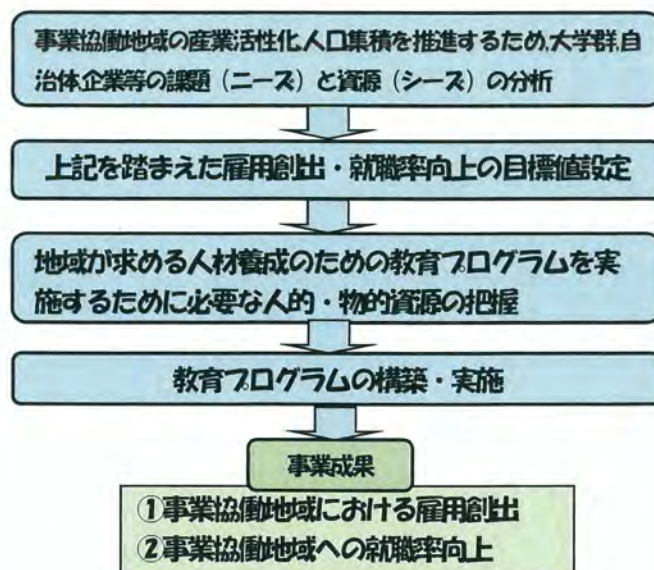


図3 COC+事業実施の流れ

3. 鹿児島県における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の概要

鹿児島県域における人口動態は、昭和34年の204.4万人をピークに徐々に減少し、平成26年には166.9万人でその内、18歳～22歳の若年人口は71,840人と少なく、人口自体は、55年間で37.5万人減少しており、平成52年には、131.4万人まで落ち込むと予測されている。この減少を補正するために産学官一体となって、若者を地元に残すための取組を推進するため県内の主要な高等教育機関がCOC+事業を実施することとなった。鹿児島県におけるCOC+事業は、鹿児島大学を拠点校として、5大学（鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学）、2短大（鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学）と鹿児島高専の8高等教育機関で構成されている（図4参照）。事業協働機関の自治体として鹿児島県、金融機関として鹿児島銀行、14の企業等で組織されている。それぞれの役割として高等教育機関は表1の役割を担うことになっている。

表1 県内教育機関の役割

- | |
|---------------|
| ①地域の求める人材の育成 |
| ②企業への学生就学能力提供 |
| ③共同研究や委託研究の推進 |
| ④インターンシップ参加促進 |
| ⑤地元企業の魅力発信 |
| ⑥就業者へのリカレント教育 |
| ⑦成果発信と高校生への広報 |



さらに、地元定着促進プログラムのコンセプトとして、以下のことを挙げている。

- ・地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
- ・参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ・地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進

図4 鹿児島県のCOC+実施体制

4. 鹿児島高専における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の事業

鹿児島高専では、霧島市、日置市、両市の商工会議所、商工会、鹿児島高専テクノクラブ（KTC）などと連携して地方創生推進事業を展開している。

4.1 「COC+高専」地方創生推進会議の実施

本会議は、霧島市、日置市及び両市の商工会議所、鹿児島高専テクノクラブ（KTC）会員、九州経済研究所、鹿児島高専から委員13名を選出して実施している。

第1回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成28年5月27日（金） 13時30分～14時50分

【場所】鹿児島高専管理棟2F大会議室

【議事】1) 平成28年度の取組事業、2) 合同企業説明会、3) インターンシップ、4) 地元企業との共同研究について議論した。

第2回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成28年9月27日（金） 13時30分～14時50分

【場所】鹿児島高専管理棟2F大会議室

【議事】1) 地域教育特別講義の実施について、2) 地元企業就職率向上のための奨学金制度の在り方について

第3回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成28年12月20日（金） 13時30分～14時50分

【場所】鹿児島高専管理棟2F大会議室

【議事】1) 地域教育特別講義の実施について、2) 地元企業就職率向上のための奨学金制度の在り方について

第4回「COC+高専」地方創生推進会議と評価会議

【日時】平成29年3月21日（火） 13時30分～15時30分



写真1 「COC+高専」地方創生推進会議

【場所】鹿児島高専管理棟 2F 大会議室

【議事】1) 地域教育特別講義の実施について、2) 平成 28 年度「COC+高専」事業報告と評価について、
3) 平成 29 年度「COC+高専」事業計画（案）について、4) 地元企業就職率向上のための奨学金制度の在り方について

第 1 回「COC+高専」地方創生推進会議において、インターンシップと企業説明会の計画を表 2 に示す。
霧島市と連携したインターンシップと企業合同説明会開催の計画である。平成 29 年 4 月 19 日に霧島市の
主催により、5 年生を対象とする企業合同説明会を国分シビックセンターにて開催することが決定してい
る。

表 2 「COC+高専」地方創生推進会議におけるインターンシップと企業説明会の計画

協働事業	H28 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29 1月	2月	3月	備考
インターンシップ事業															
推進会議	実施準備														
市役所			広報・調整・実施支援												
企業・団体等			インターンシップ受け入れ準備												
高専(教育機関)			インターンシップ生募集												
インターンシップ								実施							
企業合同説明会事業															
推進会議	実施準備														
市役所		3/1企業説明会解禁	広報・参加要請・実施												
企業・団体等			説明会参加												
高専(教育機関)			説明会参加												
就職活動															
就職試験・内定					6/1採用試験解禁	10/1内定式解禁									

4.2 学生に対し地域企業の特別講義・講演、企業見学会の実施（写真2-4参照）

学生の地域企業への理解を深めるための特別講義・講演、企業見学と体験学習を通じ、地域を志向する学生を育成し、地元就職率及び定着率の向上に繋げることを目的として、地域企業の特別講義、企業見学会を実施した。

前期学期の企業見学会は、鹿児島アスファルト合材センター、(株) 南日本情報処理センター、アルバック九州(株)、(株) トヨタ車体研究所、(株) 南光の 5 社において実施した。特別講義は(株) コムツァイト、太陽ガス(株)、(株) オーケー社鹿児島、(株) フト流通センターの 4 社に地域企業の技術開発や就職の心得などを講義して頂いた。

後期学期の企業見学会は、(株) 山水、マイクロカット(株)、ソニーセミコンダクタマニファクチャリング(株) 鹿児島テクノロジーセンターの 3 社において実施した。特別講義は、(株) ソフト流通センター、キリシマ精工(株)、大福コンサルタント(株)、(株) キラ・コーポレーション鹿児島研究所、(株) IHI の 6 社において地域企業の技術開発や就職の心得などを講義して頂いた。



写真2 工場見学（リニエファクチャリング） 写真3 工場見学(鹿児島アスファルト合材センター) 写真4 企業講演（IHI）

4.3 学生及び保護者に対し地域企業研究会の実施（写真5-7 参照）

学生は就職に関して、保護者に相談し、方向性を出すことから、保護者にも県内企業を知ってもらう目的で、平成28年5月28日に本校体育館において、1年生の保護者に対して実施した。保護者を対象としたことから、企業の参加が危ぶまれたが、企業17社、保護者199名、学生24名の参加で盛大に実施できた。説明を親子で受ける家族もあり、企業としては、学生、その親に特徴を説明する状況が見られた。参加企業、保護者、学生へのアンケート調査では、いずれも参加して良かったとの声が多く、地元就職率アップを目標とした事業として成功したと考えている。企業からは、高専を知る良い機会になったとの報告や保護者からは、地元企業を知る良い機会であったなどの声が多く聞かれた。写真5～写真7は説明会の全景と親子で説明を受けている風景である。



写真5 説明会風景



写真6 説明会の親子1



写真7 説明会の親子2

4.4-1 地域企業研究会事業（4年生）の実施（写真8-10 参照）

企業研究会の事業は、4年生を対象として実施した。事業の目的は、5年生に進級して就職活動をするための前提知識の取得と、就職に対する準備のために行った。県内の産業分野にどのような企業があり、どのような業務を行っているか知ることとを目的としている。平成28年度は平成29年1月12日に本校体育館で実施し、県内企業36社、学生約180名の参加があった。企業からは、3月1日に解禁となる説明会の前準備ができたことや高専生の実情を知ることができたと好感触を得た。学生からは、県内企業を知ることができたこと、自分の専門分野の企業を知ることができたとの意見が寄せられた。各社ブースや資料等に工夫がなされ、学生からも分かりやすかったと好評であった。



写真8 研究会風景



写真9 説明を受ける学生1



写真10 説明を受ける学生2

4.4-2 地域企業見学会事業（1年生）の実施（写真11-12、図5 参照）

地元企業との連携により、平成27年度から、県内で事業を展開している地元企業の工場見学を行っている。専門的な見地から各企業の技能・技術を習得することを目的として実施している。本事業では、各科が通年で実施する事業とキャリア教育の一環として1年生を対象に実施している事業がある。本年は、通年で実施する事業が、5月～2月に5科で9社見学し、キャリア教育の事業で平成29年1月12日に11社を見学した。1年生は、地元企業の具体的な技術事例を知り、地域企業に興味を持つこと、3年生～5年生は、地元の企業の魅力、事業内容を知り、地元企業に就職する意義を知ることとを目的としている。図5に1年生が見学した企業の位置を示す。



図5 平成28年度県内企業見学の位置



写真11 工場見学風景1



写真12 工場見学風景2

4.5 企業説明会（写真13-15参照）

5年生の就職希望者に県内企業の求人状況を提示し、採用につなげるための目的で、平成28年7月11日に本校で実施した。参加企業は7社であった。



写真13 説明会風景1



写真14 説明会風景2



写真15 説明会風景3

4.6 インターンシップの実施

4年生に対してインターンシップ受講指導を実施している。5月に機械・金属・鉄鋼業、電気電子機器製造業、土木建設・設備工事業、ソフトウェア・情報処理業、電力・ガス・エネルギー関連業などの県内企業へ受け入れを要請し、8月～9月の夏期休業期間に実施している。平成28年度実績を表3に示す。インターンシップ受講希望者178名に対して、149名を受け入れて頂いた。そのうち県内企業の受講者は、41名であった。県内企業へのインターンシップ受講を奨励し、インターンシップでの就業体験を通して地元企業へ就職を希望する流れを構築していく予定である。

表3 平成27年度と28年度のインターンシップ受講状況

学科		28年度					27年度					増減
		全体人数	応募者	選外者	参加人数	割合	全体人数	応募者	選外者	参加人数	割合	
本科4年	機械工学科	40	43	10	33	83%	45	13	4	9	20%	63%
	電気電子工学科	42	33	9	24	57%	35	27	9	18	51%	6%
	電子制御工学科	42	38	3	35	83%	43	44	19	25	58%	25%
	情報工学科	35	22	3	19	54%	37	11	4	7	19%	35%
	都市環境デザイン工学科	41	38	3	35	85%	35	34	2	32	91%	-6%
	本科その他学年		4	0	3			4	1	3		
本科計		200	178	28	149	75%	195	133	39	94	48%	26%

4.7 教職員に対し地域企業の理解を深めるための工場見学の実施（写真 16-17 参照）

教職員の地域企業への理解を深め、地域を志向する学生等に対する就職支援を始め、的確な進路指導をすることを目標に、平成 28 年 9 月 16 日（金）に工場見学を実施した。

見学場所は、薩摩川内市 新エネルギー対策課&各エネルギー施設で、具体的には、薩摩川内市次世代エネルギー施設（スマートハウス、小鷹小水力発電所、川内駅）であった。KTC 会員企業 11 企業および高専教職員 11 名、計 26 名が参加した。



写真 16 小水力発電所見学&螺旋水車発電機



写真 17 スマートハウス見学

4.8 卒業研究の成果発表を学外で実施（写真 18-19 参照）

卒業研究発表会を学外で開催し、地域企業や自治体等関係者に本校学生の取組を広く周知することで、地域企業との共同研究やインターンシップなど、協働での課題解決等及び地元就職率及び定着率の向上に繋げることを目標に、平成 29 年 2 月 23 日霧島市民会館において、情報工学科卒業研究発表会を実施した。情報工学科 5 年生の他、本校情報工学科 3 年生 40 名、4 年生 34 名、教職員 14 名、KTC 会員企業の技術者 5 名、保護者 5 名、他の本科学生 1 年生や専攻科生 2 名の 137 名が参加した。



写真 18 発表会会場



写真 19 発表会風景

4.9 霧島市、日置市による地方創生特別講義の実施（写真 20-22 参照）

本事業の目的は、自治体職員による講演を通じ、学生に地方創生について理解させ、地元定着を図ることを目的として実施した。日程は、平成 29 年 2 月 15 日（火）14:30～15:30、場所は、本校 大講義室&合併教室、講師は、霧島市役所企画政策課 松永俊宏氏、日置市企画課行政経営戦略係 小園秀作氏である。2 市による地域教育特別講義を霧島市役所企画政策課と日置市企画課の協力を得て、1 年生を 2 学科（80 名）と 3 学科（120 名）に分けて実施した。講師の演題は、霧島市が「地方創生とは-国・市の現状と取り組み-」、日置市が、「日置市の地方創生-人口減少時代と総合戦略-」であった。アンケートで、地方創生について知らなかったが、大変勉強になった等の感想が寄せられた。



写真 20 日置市の講演



写真 21 質疑応答風景



写真 22 霧島市の講演

4.10 地元企業と共同研究を通しての人材育成の実施（写真 23-26 参照）

COC+事業の一環として地元企業と協働して、本校の産学交流組織である鹿児島高専テクノクラブ（KTC）とともに共同研究やインターンシップを通じた人材育成を行っている。特に卒業研究を人材育成、技術教育、工学教育の実践の現場として、年間を通して、学生、教員、企業技術者とともに共同研究を行っている。卒業研究の時間に、共同研究先の企業技術者が本校に来校し、教員と連携して指導することや、逆に、学生と教員が企業へ出向いて、企業現場で教員と技術者として指導を行い、実験や研究の進捗、研究の問題点について、ゼミ形式でディスカッションし、指導を行っている。

また、夏期休業時には、企業の現場において、共同研究の課題を研究する「研究開発型インターンシップ」も実施しており、学会発表に関しても、共同発表するために学生を指導している。現在、KTC とは、9 件の共同研究を行っており、前述のような具体的な共同研究開発事例として、「非接触式火山灰センサの開発」、「空気燃料電池電源の開発」、「変位・圧力計測センサブロックシステムの開発」などがある。これらは、公的機関（科学技術振興機構）からの研究助成金を獲得して行われたものであり、特に非接触式火山灰センサの開発については、平成 28 年にその研究成果を企業と共同で特許出願を行ったテーマである。写真 1～写真 4 は、共同研究をもとに卒業研究での指導の事例と学会発表の状況を示す。



写真 23 本校での指導事例



写真 24 企業での指導事例 1（左：技術者）



写真 25 企業での指導事例 2（左：技術者）



写真 26 学生の学会発表（於：宮崎大学）

4.11 地方創生産学官連携フォーラムの実施（写真 27-30 参照）

鹿児島高専テクノクラブと連携して、地方創生産学官連携フォーラムを平成 28 年 9 月 2 日（金）に、霧島市国分シビックセンターにて開催した。参加者は地域企業、県民、本校教職員、学生・保護者で、COC+事業を知ってもらうとともに、産学官連携の推進を行うことを目的とした。前田市長と西霧島市商工会議所会頭に講演をして頂き、聴講者は 220 名であった。企業ポスターセッションも開催し、県内企業 27 社の参加があった。



写真 27 校長挨拶



写真 28 前田霧島市長講演



写真 29 西霧島市商工会議所会頭



写真 30 企業ポスターセッション

5. まとめと今後の課題

平成28年度の鹿児島高専COC+事業としてインターンシップ、企業研究会、企業説明会、企業見学会、企業講演、共同研究などを中心に、11項目の事業を実施した。概ね、計画通りに実施できたと考えている。学生を実践的技術者として育成し、地元の魅力を感じ、地元に着定することで、地元活性化が促進されると考えている。これらの事業を実施する上で、今後の課題として、幾つか挙げる。

（1）企業見学会

企業見学会は企業の選定や日程調整などの連絡調整と事務手続きに時間が掛り、実施が計画より遅延することである。

（2）特別講義

特別講義の企業側講師と高専各学科との日程調整及び講義テーマの設定が課題である。実施に当たっては、資料作成依頼、学生への資料配布、講義会場の設営と片づけなど、準備と実施、報告に時間と労力がかかることが問題である。

（3）教職員への企業講演、企業見学会

教職員の時間が取れる時期として、学生の夏期休業中を利用していたが、休暇中においても学会参加、業務出張、部活指導など多忙なため、参加者が少ないことから、次年度以降、参加者の確保と実施時期の検討が課題である。

（4）外部での卒業研究発表会

年間計画として行うよう年度当初に委員会等に諮っているが、通常の授業とは異なり、学生の評価を行う卒業研究発表会であることから、全科的には意見調整が課題である。全科実施を目標としているが、学内のコンセンサスを得るには時間が必要であり、このことが次年度以降の検討課題である。

講義・講演及び工場見学等の実績

No	日 時	形 式 (講義・講演 他)	企業・講師等	対象学科等
1	2016/5/28(土) 11:30~16:00	企業説明会	KTC会員企業17社	保護者及び学生
2	2016/6/10(金) 14:00~16:00	企業見学	鹿児島アスファルト合材センター	都市環境デザイン工学科4年
3	2016/7/11(月) 13:00~17:15	企業見学	(株)南日本情報処理センター	機械工学科3年
4	2016/7/11(月) 13:30~14:30	講義・講演	(株)ソフト流通センター鹿児島支店 事業副本部長 元吉 清隆 氏	電気電子工学科4年
5	2016/7/11(月) 15:00~17:00	企業説明会	KTC会員企業8社	全学科5年及び専攻科2年
6	2016/7/13(水) 15:30~17:10	企業見学	アルバック九州(株)	電気電子工学科3年
7	2016/8/4(木) 14:00~15:00	企業見学	(株)トヨタ車体研究所	電子制御工学科3年
8	2016/8/4(木) 10:00~11:30	企業見学	(株)南光	機械工学科3年
9	2016/8/4(木) 9:20~10:20	講義・講演	(株)コムツァイト 取締役 天辰 健一 氏	情報工学科4年
10	2016/8/5(金) 15:30~16:30	講義・講演	太陽ガス(株) 新エネルギー推進チーム 吉留 広大 氏	機械工学科2年
11	2016/11/18(金) 10:40~11:40	企業見学	(株)山水	機械工学科2年
12	2016/12/12(月) 14:40~15:40	講義・講演	(株)ソフト流通センター鹿児島支店 管理本部人事部長 郡山 臣宏 氏	情報工学科3年
13	2016/12/14(水) 13:10~14:10	講義・講演	キリシマ精工(株) 営業課長 西重 潤一 氏	機械工学科1年
14	2016/12/14(水) 15:20~16:25	企業見学	マイクロカット(株)	電子制御工学科2年
15	2016/12/16(金) 14:40~16:10	講義・講演	大福コンサルタント(株) 代表取締役専務 福田 真也 氏 技術部 阿久根 芳徳 氏	都市環境デザイン工学科4年
16	2017/1/11(水) 14:40~17:30	企業見学	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング (株)	電気電子工学科2年
17	2017/1/12(木) 8:30~17:00	企業見学	KTC会員企業11社	本科1年生
18	2017/1/12(木) 8:30~17:01	企業研究会	KTC会員企業36社	本科4年生、専攻科1年生
19	2017/1/24(水) 13:00~14:30	講義・講演	(株)キラ・コーポレーション 鹿児島研究所 設計検証グループ グループ長 松元 健太 氏	電子制御工学科4年
20	2017/1/26(金) 10:30~12:00	講義・講演	(株)JHI 技術開発部 総合開発センター 機械技術開発部 海洋グループ 部長 長屋 茂樹 氏	電気電子工学科5年
21	2017/2/15(水) 14:40~15:40	講義・講演	①日置市 総務企画部 企画課 行政経営戦略係長 小園 秀作 氏 ②霧島市 企画部 企画政策課 企画政策グループ 松永 俊宏 氏	全学科1年
22	2017/2/23(木) 9:00~17:00	卒業研究審査会		情報工学科5年

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 6 月 10 日（金） 14：00 分 ～16：00 分	
実施場所	鹿児島県アスファルト合材センター共同企業体	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 4 年 37 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	都市環境デザイン工学科 准教授 川添 敦也	所属：鹿児島アスファルト合材センター 役職：所長 氏名：高橋 竜也 氏
実施内容	土木の分野と関係の深いアスファルトについて、廃材のリサイクルから製品の出荷まで、一連の工程を見学することができた。さらに、アスファルトの種類とその特徴や用途の説明があった。アスファルトの製品検査について、実際に比重を測定することにより、品質管理も体験できた。 授業では、道路に関係する科目が多いが、アスファルトについて詳しく学ぶ機会は少ない。アスファルトの製造工程について詳しく学ぶことができ、学生にとっては、大変意義のある見学だった。道路の使用用途や環境に応じて、アスファルトの選定を行っていることに興味を持った学生が多かった。 アスファルトプラントの見学を通じて、地域の道路建設に関係する企業への理解が深まった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成28年 7月11日（月） 13:40 ～14:30	
実施場所	鹿児島高専電気電子工学科4年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 4年生 42名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 楠原良人	所属：株式会社ソフト流通センター 役職：開発部長・霧島支店長 氏名：元吉 清隆 氏
実施内容	電気電子工学科4年生42名に、鹿児島市と霧島市で事業を展開するソフトウェア関連企業の株式会社ソフト流通センターの開発部長兼霧島支店長の鹿児島高専電気工学科卒業生 元吉清隆氏より、製品設計とリサーチやCSRなどについて講義して頂いた。企業として、労働面での人権や地域社会など、多様で大勢のステークホルダーに関する会社の経営など、高専の専門では、教えない企業としての実際的な話をして頂いた。鹿児島高専在学中での専門習得の心構え、社会人になった場合、学業の成績が仕事のできる順ではないことなど力説され、高専での寮生活が社会でのコミュニケーション力に役に立つこと、部活なども重要であることなど、社会人として持つべき素養などをご講演頂いた。特別講義は、4年生前期ではあったが、就職を検討する学生にとって、地場企業のソフト開発の業務内容など、有意義な講演であった。今回の講義を受けたことで、地元企業に就職して地元活性化のためになるものと思われた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 7 月 13 日（水） 15:30 ～17:10	
実施場所	アルバック九州株式会社	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 3 年 37 名（1 名体調不良）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電気電子工学科 准教授 逆瀬川栄一	所属：アルバック九州株式会社 役職：経営統括本部長 氏名： 末重 公德 氏
実施内容	アルバック九州（霧島市牧園町）を下記の日程で見学した。 15：20～15：25（5 分） 到着 15：25～16：00（35 分） 工場見学 （大型装置見学） 16：00～16：10（10 分） 移動 16：10～16：25（15 分） 会社説明 16：25～17：00（35 分） 真空実験 質疑応答 17：10 帰校 学生は電気電子工学に関係の深い真空について熱心に話を聴いた。特に、液晶テレビ、スマホのディスプレイや、電気自動車用電源のコンデンサに使われる薄膜を作るためには、真空技術が不可欠ということを聞き、学生は興味深く聴いていた。 後半の真空実験では、五感を使った真空実験ということで、手動ポンプを使い真空を作り出し、水を沸騰させたり、コーヒーのにおいを嗅いだり、エアチョコを作ったりと、非常に楽しい時間を過ごした。最後にクラスの総務がお礼を述べて帰校した。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成28年 8月4日（木） 9：30分 ～10：20分	
実施場所	鹿児島高専情報工学科4年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 4年生 35名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科：豊平隆之 濱川恭央	所属：株式会社 コムツァイト 役職：取締役 特定技術事業部事業部長 氏名： 天辰 健一 氏
実施内容	「データ構造 とアルゴリズム」の講義の後半部分に、本学科4年35名に対し地元企業である株式会社コムツァイトの取締役の天辰様に、「スマート化社会とそれを支えるIoTテクノロジー」という題目で、特別講演を行って頂いた。 地元企業の企業及び事業内容の紹介、現在世の中に一番普及し歴史もあるスマートグリッドの話为例に、設備管理的な視点での最近の技術動向や、昨今のオープン化に対応した技術の紹介、さらにこのベースの技術と通信との融合により、最新技術であるIoTといった技術へと昇華し様々なサービスに展開された実例まで紹介して頂いた。 就職活動を来年に控えた学生にとって、地元企業の方の生の声、技術動向とそのレベルの高さを知ることができ、学生だけでなく教員にとっても、非常に参考になる有意義な講演であった。将来、今以上に地元企業に就職し、地元に貢献できる人材が出てくる突破口になったと思う。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

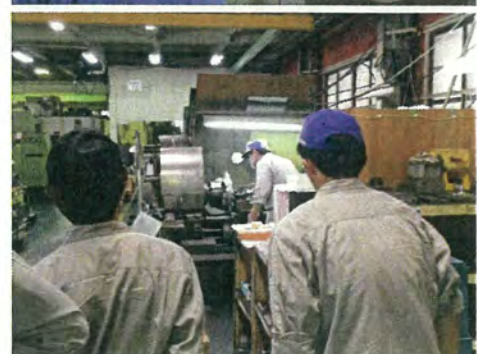
大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成28年8月4日（木） 14:00分 ～ 15:00分	
実施場所	株式会社トヨタ車体研究所	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 <u>③工場・現場見学</u> ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 3年 45名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 岸田 一也 教授 宮田 千加良	所属：株式会社トヨタ車体研究所 役職：総務室付 氏名：鶴蘭 博之 氏
実施内容	トヨタ車体研究所は、鹿児島県霧島市国分上之段に所在し、鹿児島高専から車で約35分の距離にある。今回参加した3年電子制御工学科の学生には、トヨタ車体研究所を知っている者、知らなかった者と居たようだが、工場見学を行ったことにより、どのような仕事をしているのかということがよく理解出来たようである。訪問した企業には、鹿児島高専のOBも多数おり、また活躍していることの説明を受け、就職したいと思った学生もいたようだ。トヨタ車体研究所で行っている設計、解析、品質評価、生産技術のどの仕事も、高専を卒業すると希望できることを知り、今後の勉強の励みになったと思われる。 	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 8 月 4 日（木） 10：00 分 ～11：30 分	
実施場所	株式会社南光 本社第一工場，第二工場	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 3 年 37 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 講師 東 雄一	所属：株式会社南光 役職：管理本部 総務課兼システム課 総務課 課長 氏名： 黒田 政司 氏
実施内容	到着後，会議室にて企業説明が行われ，その後，本社第一工場の見学を行った。当初の予定では第一工場の見学のみの予定であったが，先方のご厚意にて精密機械加工をしている第二工場の見学もさせて頂いた。 第一，第二工場ともに，低学年の工作実習で実際に使用したことがある工作機械が沢山使われていたり，機械工作法の授業で習った内容が実際のものづくりの現場で活かされていたりと，学校で学ぶ意義を再認識させられたようである。 学生からは，「多くの種類の製品を多くの企業に出荷しているとのことと品質管理はどのようにしているのか」などの質問があり，興味深く見学していた。また，鹿児島県の企業がどのように活躍しており，働くということがどういうことなのかを肌で感じることで有意義な見学となった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成28年 8月 5日（金） 12:40分 ～14:00分	
実施場所	鹿児島高専 大講義室	
実施形態	① <u>講義・講演</u> ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 4年 44名	
担当者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 宮田 千加良 教授 室屋 光宏	所属：株式会社オーケー社鹿児島 役職：製造部 電機設計 Gr. 係長 氏名：梶原 牧人 氏
実施内容	COC+事業の一環として株式会社オーケー社鹿児島の梶原牧人氏が電子制御工学科4年生に対して、資料配布及びプロジェクターを用いて講演して下さった。オーケー社は設備・機器等の設計・製造・導入・メンテナンスまでをトータル的に行う企業であり、電子制御工学科向けに、まずPLCに関する話をしてくださった。ここでは、FA(Factory Automation)とは、ものづくりとは、自動機とは、と対象を制御機器に絞り、駆動系・センサ・制御盤とPLC周りについて説明し、その後、PLCを使った制御機器の設計の進め方、について説明して下さった。次に、中小零細製造業に関する今後の問題として、少子化、国際化に触れ、PLC制御機器の販売先である産業分野において、自動化が進む中で安全性がいっそう重要になっていること、ハウス（農業）などを例に挙げ、設備の稼働状況の遠隔での確認・操作の需要が増えていることなど、今後の方向性についても説明して下さった。その後学生との質疑応答が行われ、地域の企業の現状や、自分がどのような仕事を行っているのか、学生時代に習ったことがどう生かされているのかなど説明して下さった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業 (COC+)

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 8 月 5 日 (金) 10:40～11:40	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 機械工学科 2 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 2 年 40 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 准教授 小田原 悟	所属：太陽ガス株式会社 役職：新エネルギー推進チーム 氏名：吉留 広大 氏
実施内容	設計製図における図面の有用性について講義した。 ドラフターでの製図と CAD での製図の違いや、図面に盛り込まれる内容、図示記号の説明など、普段目にすることの無い図面を基に解説を行った。 図面と設計に密接な関係があるものの、別のものであるということを示し、その過程について説明を行った。 学生からの質問として機械を設計するのにどのくらいの時間が必要ですかというものがあつた。これに対して「設計するものによっても違いがあるので一概に伝えることは出来ない。数時間で終わるものもあれば年単位でかかるものもある。出来るもの次第で変わってくる」のように回答した。 そのほか、実際に私が社会へ出て経験した失敗事例などを交え、製図で描きあがつた図面が以下に重要な情報伝達ツールで、コミュニケーションを図る上で必要なものであると伝えた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業 (COC+)

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 11 月 18 日 (金) 10:40～11:40	
実施場所	株式会社山水	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 <u>③工場・現場見学</u> ④現地実習	
対象学生	機械工学科 2年 42名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 准教授 小田原 悟	所属：株式会社山水 役職：鐵鋼製造部 部長 氏名： 山下 善照 氏
実施内容	(株)山水の鐵鋼製造部に行って見学した。コイル状に巻いた薄板をカットして住宅建築部材の製造、配管部材の製造をやっている様子が分かった。(株)山水は本校から最も近い工場であり、身近な存在であることが分かった。すぐに移動して見学ができる点で素晴らしい。 (株)山水の主な製造物としては仮設建物やビニールハウスなどの鐵鋼部材を製造しており、幅広いニーズに応えるために精度の高い製品を生産している様子がよく分かった。 製図の授業の中での見学であったが図面があまり工場内に見られなかった。工場ではすでに決定された形状をいかに効率よく製造するかに重点を置いており、設計部門のように図面ばかりの様子ではないことが分かった。 見学後の 2M 学生の様子	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成28年 12月12日（月） 14:40 ～ 15:50	
実施場所	株式会社 ソフト流通センター	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 3年生 39名 4年生 1名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	3年担任： 新徳 健 4年担任： 玉利陽三 情報工学科：濱川恭央	所属：株式会社 ソフト流通センター 所属・氏名：郡山人事部長、人事部田中様 元吉霧島支店長、向江情報卒業生
実施内容	地元鹿児島の IT 企業であるソフト流通センターから4名の方に来ていただき、地元企業の紹介及び仕事内容、「働く」ことについてご講演いただいた。 まず、霧島支店長でかつ鹿児島高専電気工学科 OB の元吉様より、高専での勉強、成績の順位が仕事のできる順番ではない、寮生活（縦社会）が役に立つ、アルバイトすることなども大事など、学生目線での社会人になった時のことをご講演頂いた。 次に3年前に情報工学科を卒業した向江様より、高専での勉強や現在携わっているWEBシステムの開発をご説明頂いた。 さらに田中様より SHARP のロボフォン、そのソフト開発も行っていることをご紹介頂いた。 最後に郡山人事部長より会社全体の業務と、地元支店があると将来鹿児島に帰れることなどをご説明頂いた。 ご講演を通して、学生らは多くの知識だけでなく、職場の雰囲気、働くための心構えを知り、約1年後に直面する就職活動の刺激になり、大変有意義かつ有難いご講演になったと思う。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業 (COC+)

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28 年 12 月 14 日 (水) 13:00~14:00	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 機械工学科 1 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 1 年 43 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 准教授 小田原 悟	所属：キリシマ精工株式会社 役職：営業課長 氏名：西重 潤一 氏
実施内容	機械工学科 1 年の創作活動の授業の中でこの特別講義を実施した。創作活動の趣旨は、理屈を習う前に実践的なことをまず手を動かして実際にやってみるというものである、キリシマ精工(株)には、自社が製造する小型の部品の精密加工の技術について紹介があった。また、テレビ取材を受けたり、地域の振興助成事業に参加して社会貢献をしている会社であるという説明があった。加工法としては、カーブカット法という特殊な方法で 0.2mm 角のサイコロの製作に成功したという例もあった。このほか光通信部品や半導体、医療、宇宙航空機器など他業種にわたって様々な精密部品を製作している会社であることが分かった。より詳細については、1 月 12 日の工場見学で現場を実際に見て理解できるものと思う。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 28年 12月 14日（水） 15:20分 ～16:25分	
実施場所	マイクロカット株式会社	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 2年 38名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 宮田 千加良 講師 町 泰樹	所属：マイクロカット株式会社 役職：生産技術部 部長 氏名： 杢田 悟 氏
実施内容	まず食堂において、会社概要の説明があり、本校の卒業生や U ターン者も頑張っていること、今説明している杢田部長も、本高専電子制御工学科5年生に対して非常勤で授業を行っていたことなど、高専とつながりあることを説明してくださった。次にこの企業の主要製品は光コネクタ関連機器であること、マイクロメートル単位の精度で加工していること、製品の40%は海外向けであることなど、説明があった。また製造に関しては、客先からの仕様に対して、どのような加工機を用いてどのようにして作成すれば仕様を満足する製品が早く安価に作成できるかが大切であると説明された。その後、4班に分かれて工場の見学が行なわれた。内部での撮影は機密保持のため禁止であった。各工場建屋には加工機がたくさん並んでおり、圧巻であった。加工機の説明、製品の説明を行いながら見学したが、工作機械は1年の実習で習っていたため、NC 機器、ワイヤー放電加工機など興味を示しながら、都度説明者に質問していた。表面加工やバリ取りなど工程の流れについても説明を受けながら見学した。地域にもこのような精密加工を生業とする企業があり、130名近くの従業員が働いていること、高専とも関わりを持っていること等、わかってもらえたのではと考える。	



食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成28年12月16日(金) 14:40分 ~ 16:10分	
実施場所	都市環境デザイン工学科棟 2階 4C教室	
実施形態	① <u>講義・講演</u> ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 4年 40名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域協働テクノセンター 地域連携特任教授 楠原 良人	所属：大福コンサルタント株式会社 役職：取締役 技術部長 氏名：阿久根 芳徳 氏
実施内容	・大福コンサルタント株式会社 代表取締役専務福田真也様より 同社の業務内容と特徴やアピールポイントなどについて、ご説明頂いた。同社は鹿児島をベースに九州一円で優れた都市開発に携わる建設コンサルタントであり、環境プランナーである。工学博士、技術士をはじめ、多数の有資格者を擁した歴史と実績を誇るコンサルタントである。限りある自然を生かし、潤いと快適性を求め、安全な住みやすい地域社会を実現し、共に繁栄していくことが同社の目標である。 取締役技術部長阿久根芳徳様より ・県内の都市環境設計事業・土木関連事業・その他についてご講演頂いた。特に湧水町における都市環境整備事業について詳細にご説明があり、同社の高い技術力と環境配慮に関するアプローチが披露された。また、圏内最大の一級河川である川内川の放水路についてのご説明もあり、災害時の対策や防災技術の適用のみならず、日常時の親水空間の創出や地域コミュニティとの関連を踏まえた、地域活性化の取り組みなど、学生達の向学意欲を喚起する内容のご講演であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業 (COC+)

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年 1月11日(水) 14:40 ~ 17:30	
実施場所	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 鹿児島テクノロジーセンター	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 2年 43名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	一般教育科 教授 鞍掛 哲治	所属：ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 役職：渉外担当 氏名：堂森 政治 氏
実施内容	堂森政治渉外担当他、多くの社員の皆様にご対応いただき、短時間ではありますが、非常に密度の濃い工場見学になりました。 見学の内容は、まず会社の概要と環境への取り組みの説明をしていただきました。学生の中には、当社の環境負荷ゼロ：Road to Zeroへの徹底ぶり・挑戦にとっても印象づけられたようでした。 次に、半導体製造ラインの見学をさせていただき、学生には説明が少々難しかったようですが、日頃座学でしか学んでいないものを直に見ることができ、製造工程の大まかな流れをつかむ良い機会だったようです。 さらに、人事担当の責任者からもお話をいただき、彼らの将来のキャリア選択の際に大いに役立つ話をさせていただきました。 学生は2年生になり、専門科目も増え、またこの後期より実験科目も始まりましたので、今回の見学は彼らにとって現在、そして将来に非常に役に立つ内容ではなかったかと思われます。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年 1月24日（火） 13:00分 ～14:30分	
実施場所	電子制御工学科4年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 4年 41名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 島名 賢児	所属：株式会社キラ・コーポレーション 鹿児島研究所 役職：設計検証グループ グループ長 氏名： 松元 健太 氏
実施内容	平成29年1月24日（火）に電子制御工学科4年の教室において学生40名（1名欠席）に対して株式会社キラ・コーポレーション鹿児島研究所の設計検証グループ・グループ長である松元健太氏から「CAE 解析による材料強度の検証」というタイトルで講演があった。キラ・コーポレーション鹿児島研究所が進めている 3DCAD による工作機械の設計、および最適設計において重要な技術となる CAE について講演があった。さらに CAE 解析を行う上で学校の授業で勉強する材料力学や材料学の知識の必要性についての話や、CAE による様々な解析事例の紹介もあった。また、大企業と中小企業で働くことの違いや、地元で働くことのモチベーションやメリットなど、自らの経験をもとにした話などもあった。 学生たちはこれまで勉強してきた材料力学や材料学などが企業で実際に仕事をしていく上でどのように生きてくるのかを知ることができ、さらに地元で立地する企業で働くことについて興味を持ったのではないかと感じた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年1月26日（木） 10時30分 ～ 12時00分	
実施場所	電気電子工学科5年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 5年 「高電圧工学」受講生 28名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電気電子工学科 教授 中村 格	所属：株式会社IHI 役職：技術開発本部 総合開発センター 機械技術開発部 海洋技術グループ 部長 氏名： 長屋 茂樹 氏
実施内容	株式会社IHI様は、内閣官房総合海洋政策本部が推進する「海洋エネルギー実証フィールド」候補地である本県口之島において、海流発電（黒潮を利用した新しい発電技術）の実証試験に向けて、計画を進められている。 今回の特別講義は、本校の行う地方推進事業（COC+）の推進事業の一つ「地域教育特別講義（地域理解の地域思考教育）の推進」として企画し、下記の通り実施した。 10：30～10：35（5分） 楠原特任教授による講師紹介 10：35～11：45（70分） 長屋様による特別講義 11：45～12：00（15分） 質疑応答 海洋はたくさんの恵みをもたらしてくれる広大なフロンティアである。黒潮を利用した新しい発電技術についての講義に、学生は興味を持って熱心に聴講していた。加えて、4件の質問にも丁寧な回答を頂いた。今回の特別講義は、学生の地域理解にとっても有意義であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業(COC+)

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年 2月23日(木) 9:00 ~ 17:00	
実施場所	霧島市 霧島市民会館	
実施形態	卒業研究審査会	
対象学生	情報工学科 5年生 36名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科：豊平隆之 濱川恭央	
実施内容	昨年度よりCOC+事業の一環として、情報工学科学生の日頃の研究活動等の取組を広く地域企業や自治体に紹介し、地域企業が抱える課題と学生の研究テーマのマッチングを図ることで、インターンシップの推進を始め、学生が地域企業をより一層理解するための一助となればと考えて情報工学科5年生の卒業研究審査会を公開で実施している。 本年度は情報工学科5年生の卒業研究審査を霧島市「霧島市民会館」にて開催し、本校情報工学科3年生40名、4年生34名、教職員14名、地元企業の社長や技術者5名、保護者5名、他の本科学生1年生や専攻科生2名の137名が参加した。 卒業研究審査会にて卒業研究の発表を行った5年生には大きな舞台での発表は良い経験となり、5年生以下の学年には将来自分が取り組む研究を知り、今後の勉学の意欲につながると考える。さらに地元企業には、本校のシーズを伝える良い機会となった。	

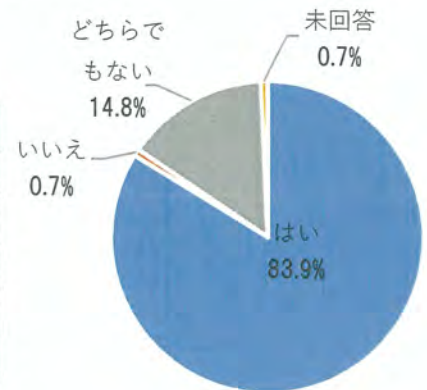


保護者向け校内合同企業セミナー(平成 28 年 5 月 28 日)集計結果

回答数 149 (保護者: 199 名、学生: 24 名が参加)

1. 本セミナーに参加してよかったですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	はい	125	83.9
2	いいえ	1	0.7
3	どちらでもない	22	14.8
4	未回答	1	0.7
	N(%ベース)	149	100



2. よろしければ 1 の理由を具体的に教えて下さい。

(はいと回答した方)

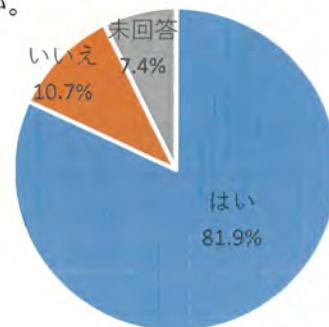
- ・県内企業を知る事ができて良かった。
- ・県内企業でかつ卒業生の話が聞くことができて良かった。
- ・地元こんな会社があったのかと知る事ができて良かった。
- ・実際にその会社の方と対面で話せることで親近感が持てて、興味が沸いた
- ・インターンシップの受入についても知りたかった。インターンシップから繋げていきたい。
- ・全く先(進路)が分からない中で、今日のセミナーを受けて少しだけ進む路が見えてきました。
- ・会社名は知っていたが、実際に何を作っている企業なのか知らなかった。
- ・いろいろな企業が奮闘していて高専卒業生を欲しいと思っていることが嬉しかった。

(いいえと回答した方)

- ・我が子が希望している職種がなかった。
- ・親も参加するので、どの学科が有利だとかの情報が欲しかった。
- ・なりたいと考えている職業に近いものがなかった。
- ・あと 10 社くらい来て欲しかった
- ・子どもと一緒に参加した方がいいと思った。
- ・職種に限りがあってももう少し数があったら良かった。
- ・子どもの学科に当てはまる企業が少なかった。
- ・機械系の企業が多かったので意味が無かった。
- ・少し座りづらい。

3. 来年度も同様のセミナーが実施される場合は参加を希望されますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	はい	122	81.9
2	いいえ	16	10.7
3	未回答	11	7.4
	N(%ベース)	149	100



4. 本セミナーの実施内容やその他ご自由にご記入下さい。

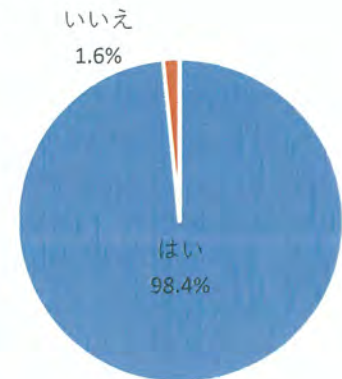
- ・今後もこの企画は続けていただけたら保護者にとっても学生達にとってもチャンスだと思います。
- ・入学したときに、親と子で企業セミナーに参加できれば、意識を持って自分の将来について考える場になったのではないかと思います。
- ・来年は子どもを連れてきたいと思った。
- ・形式を張ってない所が自由にお話しできてとても良かった。
- ・親にとってもとても楽しかった。いけるものなら私が行きたい！我が子には、大いに悩んで欲しいと思います。就職先で悩めるなんてぜいたくですよ。
- ・もう少し早くからしていただけたらと思います。何回でも企画 OK だと思います。
- ・中間試験前で当の本人が来ることができなかったのも、開催時期を4月～5月くらいで欲しい。
- ・学科毎に区分けしていたら保護者としても入りやすいし、聞きやすいかと思います。
- ・企業紹介のパネルにある「高専卒〇名」を「〇〇工学科卒〇名」など卒業学科が分かるようにして欲しい。
- ・一人では入りにくかった。
- ・参加企業の数に比べて会場が大きかった。入りづらかった。

高専生のための地域企業研究会(平成 29 年 1 月 12 日)集計結果

回答数 126 (本科 4 年生、専攻科 1 年生 166 名参加)

1. 本研究会に参加してよかったですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	はい	124	98.4
2	いいえ	2	1.6
	N(%ベース)	126	100



2.1 の理由を具体的に教えてください。

(はいと回答した方)

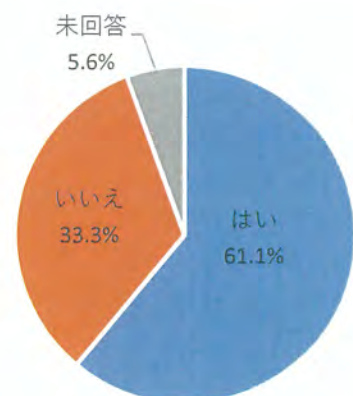
- ・ 今回の研究会を通して、今まで知らなかった企業や会社のことをパンフレットや直接話を伺うことで知ることができたので、企業を多く知れたという機会としてとても良かった。
- ・ 県内のことを知る機会、きっかけになったから。
- ・ 県内企業の雰囲気、業務内容を知ることができ、会社ではどのようなことをしているのかを直接聞くことができたから。
- ・ 自分の興味がないと思っていた会社の話を聞いたら、意外と面白い事業をしていることが分かったから。
- ・ 卒業生からの生の声を聞いたのが大きかった。
- ・ 今後の目標や技術者としての姿勢を発見できた。
- ・ どんなことに自分が興味を持っているか確認ができた。

(いいえと回答した方)

- ・ 県外での就職を希望しているため。
- ・ 興味のある分野が少なかった。

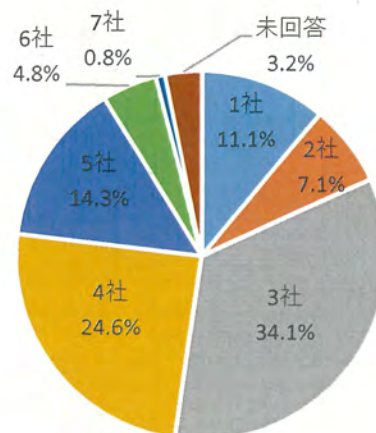
3. 参加企業のうち、就職活動を検討している企業はありますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	はい	77	61.1
2	いいえ	42	33.3
3	未回答	7	5.6
	N(%ベース)	126	100



4.訪問した企業数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1社	14	11.1
2	2社	9	7.1
3	3社	43	34.1
4	4社	31	24.6
5	5社	18	14.3
6	6社	6	4.8
7	7社	1	0.8
8	未回答	4	3.2
	N(%ベース)	126	100



5.その他、意見があれば自由に書いてください。

- ・県内就職を考える人にはとてもありがたい機会だったと思います。自分も色々な企業をしれてよかったです。
- ・企業数に対して、時間が短く、行きたかった企業に行くことができなかったのももう少し時間を延ばしてほしい。
- ・アナウンスなどで説明が聞きづらいことがあった。
- ・2列目以降が企業の人説明が聞き取りづらい。

特別講義(平成 29 年 2 月 15 日)

対象学科:機械・電気電子・都市環境デザイン工学科1年生

演題:日置市の地方創生～人口減少時代と総合戦略～

講師:日置市 総務企画部企画課 行政経営戦略係長 小園 秀作 氏

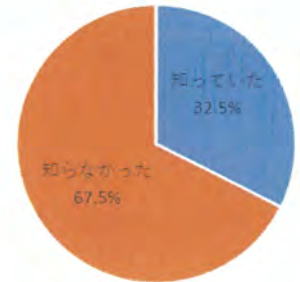
1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	40	32.5
2	知らなかった	83	67.5
	N(%ベース)	123	100

知っていたと回答した方に聞きます。あなたが知ったきっかけを教えてください。

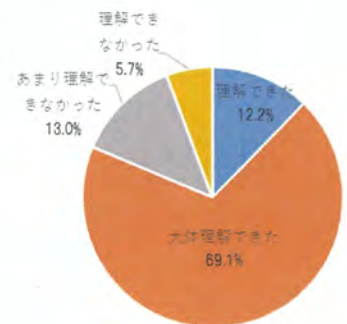
※複数回答可

- 授業・・・9 件
- マスメディア(テレビ・新聞・雑誌・インターネット)・・・29 件
- 両親・知人・・・2 件
- その他・・・1 件



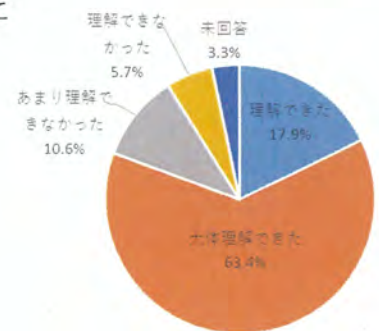
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	15	12.2
2	大体理解できた	85	69.1
3	あまり理解できなかった	16	13.0
4	理解できなかった	7	5.7
	N(%ベース)	123	100



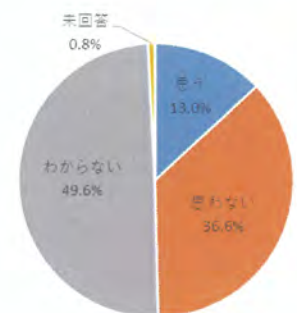
3. 地方創生特別講義を受けて、自治体(霧島市または日置市)の地方創生事業に対する取り組みを理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	22	17.9
2	大体理解できた	78	63.4
3	あまり理解できなかった	13	10.6
4	理解できなかった	7	5.7
5	未回答	4	3.3
	N(%ベース)	123	100



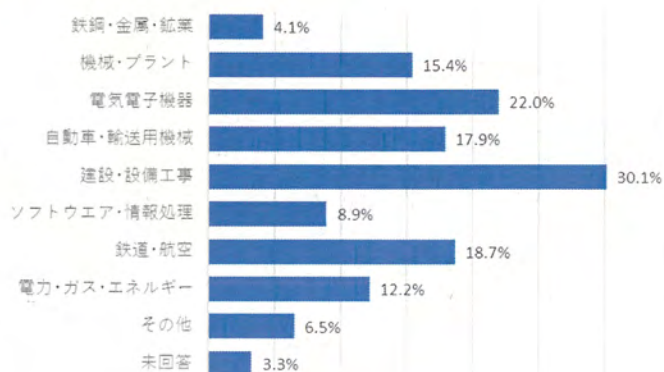
4. 地方創生特別講義を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	16	13.0
2	思わない	45	36.6
3	わからない	61	49.6
4	未回答	1	0.8
	N(%ベース)	123	100



5. もし、県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	5	4.1
2	機械・プラント	19	15.4
3	電気電子機器	27	22.0
4	自動車・輸送用機械	22	17.9
5	建設・設備工事	37	30.1
6	ソフトウェア・情報処理	11	8.9
7	鉄道・航空	23	18.7
8	電力・ガス・エネルギー	15	12.2
9	その他	8	6.5
10	未回答	4	3.3
	N(%ベース)	123	100



6. 今回の地方創生特別講義を受けての感想、意見などを自由に書いてください。

7. 今後、自治体を実施してほしい取り組みなどあれば自由に書いてください。

特別講義(平成 29 年 2 月 15 日)

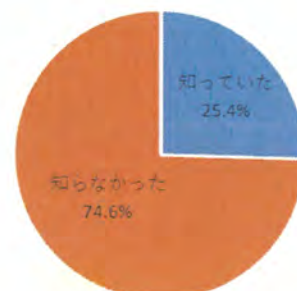
対象学科:電子制御・情報工学科1年生

演題:地方創生とは一国・市の現状と取り組み

講師:霧島市 企画部企画政策課 企画支援グループ 松永 俊宏 氏

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	15	25.4
2	知らなかった	44	74.6
	N(%ベース)	59	100



知っていたと回答した方に聞きます。あなたが知ったきっかけを教えてください。※複数回答可

■授業・・・3 件

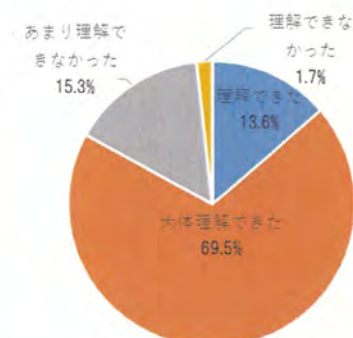
■マスメディア(テレビ・新聞・雑誌・インターネット)・・・11 件

□両親・知人

□その他

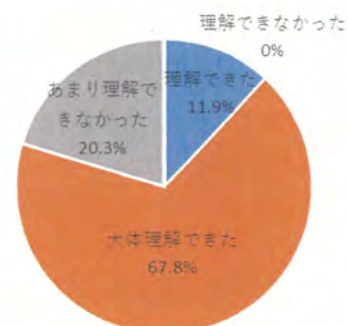
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	8	13.6
2	大体理解できた	41	69.5
3	あまり理解できなかった	9	15.3
4	理解できなかった	1	1.7
	N(%ベース)	59	100



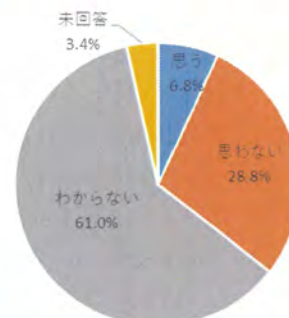
3. 地方創生特別講義を受けて、自治体(霧島市または日置市)の地方創生事業に対する取組みを理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	7	11.9
2	大体理解できた	40	67.8
3	あまり理解できなかった	12	20.3
4	理解できなかった	0	0
	N(%ベース)	59	100



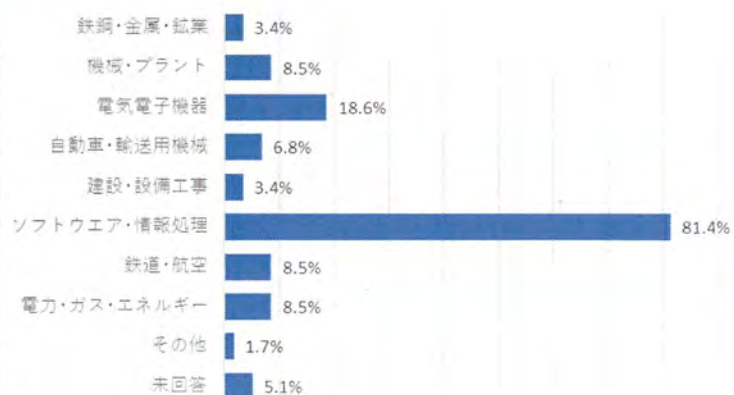
4. 地方創生特別講義を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	4	6.8
2	思わない	17	28.8
3	わからない	36	61.0
4	未回答	2	3.4
	N(%ベース)	59	100



5. もし、県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	2	3.4
2	機械・プラント	5	8.5
3	電気電子機器	11	18.6
4	自動車・輸送用機械	4	6.8
5	建設・設備工事	2	3.4
6	ソフトウェア・情報処理	48	81.4
7	鉄道・航空	5	8.5
8	電力・ガス・エネルギー	5	8.5
9	その他	1	1.7
10	未回答	3	5.1
	N(%ベース)	59	100



6. 今回の地方創生特別講義を受けての感想、意見などを自由に書いてください。

7. 今後、自治体を実施してほしい取り組みなどあれば自由に書いてください。